

# イカナゴ情報 No.2 (2015年7月)

平成27年7月22日

稚内水産試験場調査研究部 (担当: 美坂) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類<sup>1</sup>の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

## 漁獲物調査: 6月に続き、7月も体長15~20 cmの1~2歳魚が主体

今年はいままで6月3回、7月3回の漁獲物標本測定を実施しました。昨年は3歳以上の大型魚が主体でしたが、今年はいまだに6月に続き7月も体長16 cm前後の1歳魚と体長19 cm前後の2歳魚が主体となっていました (図1)。

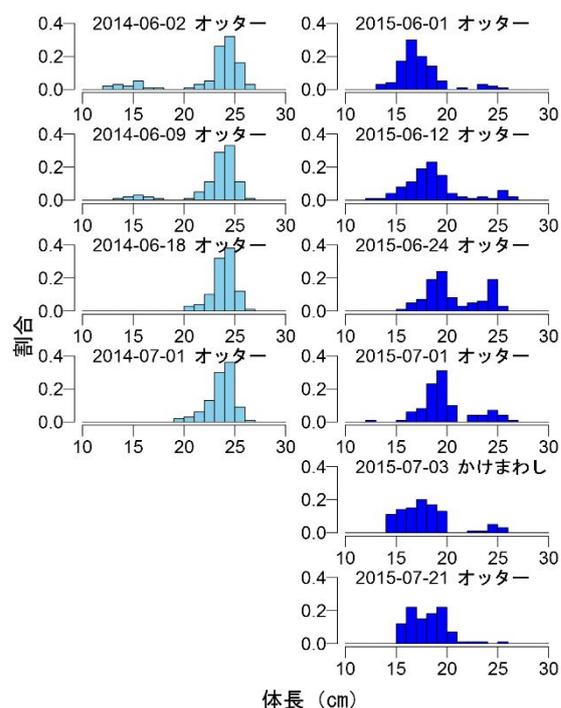


図1. 稚内港に水揚げされたイカナゴ類漁獲物の体長組成 (2014, 2015年)。

## 魚探調査: 水深80~90 m付近にイカナゴ類と思われる棒状反応

イカナゴ類の漁場となる宗谷海峡東方海域において、7月16日に試験調査船北洋丸により海洋観測および魚探調査を実施しました (図2)。

水温断面図を見ると、沿岸側を流れる暖流水が6月下旬より深い水深帯に達しており、沖合中層の冷水との間で水温は急激に変化していました (図3左)。

魚探調査では、暖水と冷水の境界に形成される潮目にイカナゴ類の餌となるプランクトンなどの反応が見られ、その下層にイカナゴ類と思われる棒状反応が観察されました (図3右)。棒状反応が多く見られた水深帯は、6月下旬の調査では60~80 mでしたが、今回の調査では80~90 m付近となっていました。

ただし、宗谷海峡東方海域の水温分布は潮流の影響などによって短時間で大きく変化すると考えられるため、イカナゴ類の分布も水温とともに短時間で変化している可能性があります。

<sup>1</sup> イカナゴ類にはイカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの3種が含まれる (Orr et al., 2015)

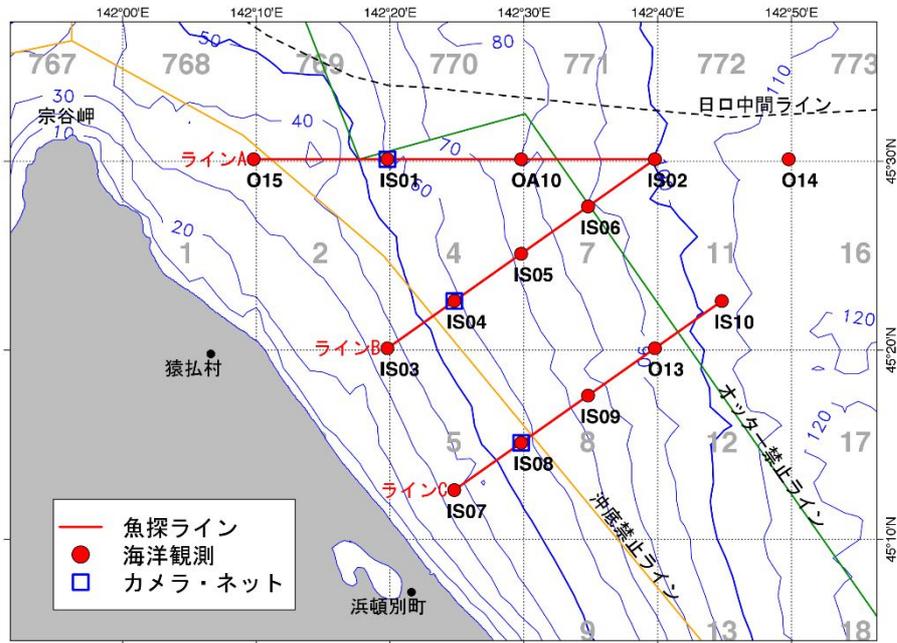


図2. 海洋観測点と魚探調査ラインの位置. 2015年7月16日実施.

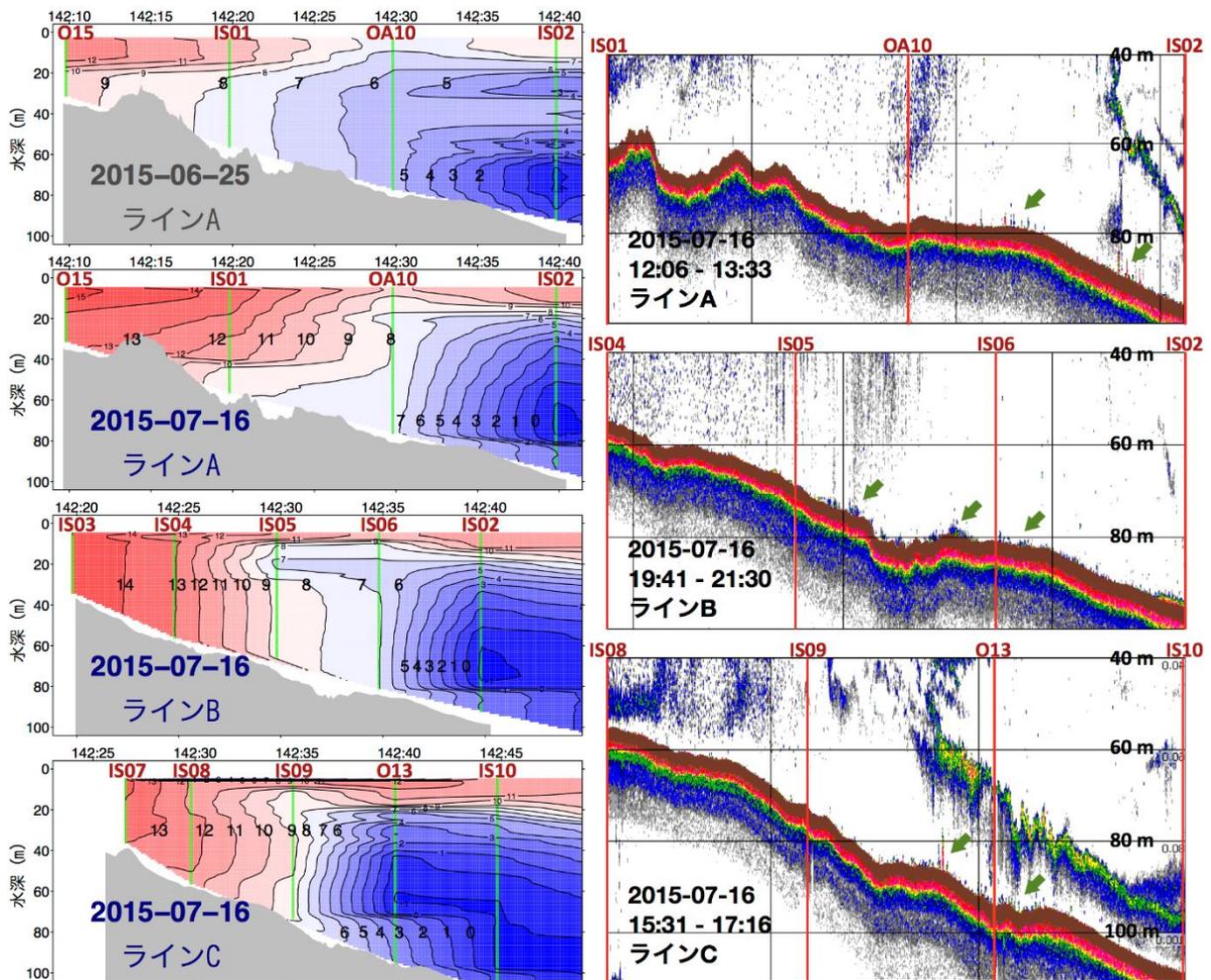


図3. 水温断面図(左)と魚探画像(右). 2015年7月16日実施.  
右図の矢印はイカナゴ類と思われる反応, 表中層の反応はプランクトンなど.